

随 想

同窓会会長 平 田 豊 (22回)

波瀾に満ちた年が終わって、平成 17 年が始まった。スマトラ沖の大津波は昨年末の事変であるが、年が明けても判明した死者の数は増え続けて、被害の深刻さが今更の様に伝えられている。

日本では、昨年秋、新潟中越の地震が人々を驚かせ、今年で 10 年を迎えた阪神大震災と共に、自然の持つエネルギーの恐さを思い知らされた。

自然の災害だけでなく、人災も多かった。親が子を殺し、子が親を殺すという忌まわしい事件が日常茶飯の事となり、子供の誘拐事件も頻発した。日本の町は世界一安全で、夜中に婦女子が一人歩きをしても大丈夫だと言われてきた。それを我々日本人も自慢してきたが、今やその誇りの跡形も無い。

「この国はどこへ行こうとしているのか」というテーマで、新聞や雑誌が特集を組み、多くの識者が色々な意見や対策を述べている。政治が悪い、経済政策に思い切りが無い、戦後教育の間違いのツケが本格的に出てきた等々、百家争鳴の感があるが、戦後 60 年の間の政策の誤りが、ここへきて一挙に現れてきた事は間違い無い様である。少子化も今後の大きな課題であるし、ゆとり教育の結果として、子供の学力の低下も著しく、その対策が急がれている。

いずれにしても、複雑骨折のような日本が、これから立ち直って行く為には、あらゆる部門において相当な時間とキメ細かい対策が望まれるが、やはりその根本に、地道な教育の努力が必要と思われる。

翻って、我が甲陽同窓会の 1 年間の動きは、まずは順調に推移した。各委員会とも精力的な活動で、同窓会運営の活性化に寄与してくれた。貴重な時間を割いてくれた各委員の皆様に、改めて御礼を申し上げたい。

さて、同窓会活動の中で今回特記すべきものは、甲陽奨学金ファンドと甲陽アーカイブスの立ち上げである。紙数に限りがあるのでこの稿ではファンドのみを

取り上げる事にするが、この構想は 2003 年の 8 月に始まった。34 回生の諸君が卒業 50 周年を迎えて、何か記念になる事業をやりたいというところから始まったのである。何回かの発起人打ち合わせ会を経て、同窓会会務運営委員会で本格的な審議を始めたのが 2004 年 6 月である。その後 20 数回に及ぶ検討会や打ち合わせ会の後、来る 4 月の役員総会での承認を得て、実行に移したいと考えている。

詳細は別掲の理事会報告を参照されたいが、同窓会の母校に対する貢献事業として、なんとしても成功させたいと願っている。

特に此のファンドの特徴は、同窓生一人一人の志を受け入れる事によって成り立つ仕組みである。金額の多寡を問わず、又時間を掛けてでも永続的に資金を積み上げることによって、効果を挙げて行く仕組みである。

仔細に検討すれば、今後色々な問題が出てくるかもしれないが、多くの同窓生の意見にも耳を傾けながら実効を挙げて参りたい。

又、此のファンドは、決して強制的なものではないが、基本的には同窓生の全員参加のファンドである。34 回生の皆さんが、ひと粒の種を蒔いてくれたその勇気と情熱に敬意を表すると共に、その種が芽を出し大木に育つ様、同窓生全員の協力をお願いしたいのである。

甲
陽
だ
よ
り

発行所

〒662-0096 西宮市角石町3-138

甲陽学院同窓会

発行人 平田 豊

印刷所

株式会社 小西印刷所

西宮市今津西浜町2番60号

TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用

TEL 0798-71-4888

(月・水・木 10:00~16:00)

FAX 0798-71-4890

E-mail:

fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

甲陽ホームページ

<http://www.kabto-yama.ac.jp/koyo/>

今回は土曜日。
今すぐご予約を!

甲陽学院同窓会会員のための

詳細は16頁に

清 酒 白 鹿 酒 蔵 見 学 会

平成17年3月26日(土) 午後1時~4時

先着
50名限り

申し込みは、甲陽学院同窓会事務局まで

〒662-0096 西宮市角石町3-138

電話0798-71-4888(月・水・木・金 10時~16時)

学校だより

高等学校卒業式式辞

混迷の時代を過ごしていく君達に

学校長 石川 義 明

2月5日(土)午前10時より、甲陽学院高等学校の卒業式が挙行され、86回生がめでたく母校を巣立ちました。当日、石川校長先生は式辞のなかで「混迷の時代を過ごしていく君達に心に留めておいてもらいたい三つのこと」を話されました。ここにその一部を掲載いたします。

今、私達の暮らしている高度文明社会は、地球の有限の枠組の中で成り立っています。急激な人口増加や、過度の市場経済化が深刻な気候変動とエネルギーの枯渇を引き起こしています。そして、貧富の二極化がますます進み、発展途上国によっては飢餓状態にあり、多くの子供たちが栄養失調で亡くなっていますが、日本では、一年間に国内生産を上回る2千トンの食料を捨てています。また一方では、我が国の人口は、大きく減少し、団塊の世代が定年退職を迎える2007年から労働力不足に陥り、初めて日本が直面する人口減少による経済縮小時代を迎えます。目の前の状況をみても、何事につけ、生活環境は不安定化し、これまで盤石のようにみえた組織もそうではなくなりつつあります。こうした経済低迷、少子高齢化、環境破壊、地域間格差など、社会がかかえるさまざまな課題に対して、常に新たな提案と解決策を模索していかなければなりません。

こうした人生設計の立てにくい混迷の時代を過ごしていく君達に、いくつか心に留めておいてもらいたいことを述べてみたいと思います。

一つには、君達は一人ひとり、尊くかけがえのない人間として、あらゆる可能性を秘め、この世に生まれてきました。家族の大きな愛情に育まれ、さまざまな環境の中で、いろいろな人達に支えられて、今、ここにいるのです。これからの君達は、しっかりと自分を見つめ、何を成すべきか、何を成すべきでないのか、しっかり考えて、自己確立をしてほしいのです。一人ひとりが何を選ぶのか、その能力を問われている時代です。誰かが与えてくれるものではなく、自分に気付き、自分で考え、自ら行動し、そしてその責任をとり、他人と共生できる自律した人間であることが求められているのです。

現代人の多くは、物質的な豊かさと、マスメディアやインターネット、携帯電話などを媒体としてあふれだす情報におぼれ、自分で考えることを忘れ、個人の責任を放棄し、思考停止に陥ってしまっているようにみえます。何より一人ひとりが考える努力を取り戻し、自らの存在価値を創造しながら、何を成すべきか、何を成すべきでないかを自らに問い続けて、謙虚に生きてほしいのです。

二つには、君達の武器であるレベルの高い基礎学力を駆使して、プロフェッショナルを目指してほしいのです。どの分野の、どのレベルの仕事でも、そこで見えない問題を浮き彫りにする力、マニュアルを越えていける能力を粘り強く、鍛え続けていってほしいのです。一例を述べてみますと、オムロンという会社が、阪急電鉄の北千里駅に通勤ラッシュ解消のため、世界で初めて自動改札



の無人駅を創った話です。人の流れを止めず、スムーズにするためには一分間に80人分の改札処理が課題で、定期券や切符の裏の磁気から情報を読み取る技術、不正な券の識別、荷物と人の判別、前の人や後ろの人の乗車券と自分の乗車券が間違えられないかというような技術課題を一つ一つ解決していきました。特に、切符を表裏、縦横どちらから入れても問題なく処理する技術は難関でしたが、ある時、気分転換のため釣りをしていた技術者が、流れてきた木の葉が石に当たり方向を変えるのを見て、解決のアイデアを発見したそうです。パスツールの言葉に「幸運の女神は、常に用意された人にもみ訪れる」とあります。常に先を読み、世に先駆けようとしている人、問題解決に悩んでいる人に、答えは与えられるのだと思います。

君達はこれからいろいろな仕事に携わってゆくと思いますが、私の希望を申しますと、学問を志し研究を重ね、世界を相手に堂々と日本をリードしていける人、また、目立たない地味な仕事に喜びを見だし、強い意志と努力で成し得た仕事、結果として社会の役に立つような人、いかなる分野であろうと、少なくとも自分のいる場で、なくてはならない存在感のある人であってほしいと願っています。

三つには、自分の仕事だけでなく、社会にそして世界に目を向けてほしいのです。雇用や上下の関係のないところで一人ひとりがどう動けるのか、問われる時代になってきています。今や相互依存の時代です。自分だけが安全だとか、自分だけが幸せである、あるいは自分だけが繁栄の中にいるという考えでは立ちゆかなくなっています。自分の属する地域、そして世界全体の繁栄を考えようという思考を持ち続けてください。国際化の時代にあって、若い君達は世界に向けて存在感を示し、異なる社会、異なる言語、異なる文化、異なる宗教の人々と、豊かなコミュニケーションができ、ともに行動できるようになってほしいのです。そしてお互いに尊敬と信頼の気持ちを持ちながら繋がっている人間関係を大切に築いていってほしいのです。

以上いずれにしても、一に君達一人ひとりの意識の高さにかかっています。

学校だより

甲陽学院同窓生講演会

中
学
校

宇 宙 へ の 夢

宇宙航空研究開発機構・助教授
齋 藤 義 文 (66回)

2004 年 11 月 18 日
(木)の午後、甲陽学院
中学校講堂において、第4回卒業生講演会を開催しました。今回は、独立行政法人・宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部・宇宙プ

ラズマ研究系で助教授をされている齋藤義文氏に宇宙開発の現状と将来への展望について、映像を交えながらお話していただきました。

齋藤氏は本校卒業後、京都大学理学部地球物理学科・同大学大学院へ進学、大学に籍を置いたまま、神奈川県相模原市にある宇宙科学研究所で研究を始められ、92年、同研究所・太陽系プラズマ研究系助手に就任、95年に東京大学から理学博士号を取得、97年には助教授に昇任され、現在も同所で精力的に活躍されています。

今回の講演では、はじめに日本の宇宙研究の歴史と現状に簡単に触れられた後、まずオーロラを取り上げられました。その実際の美しい映像には生徒一同歓声をあげて喜んでいましたが、その発生メカニズムや研究観測方法の説明に移ると、今度は一変して、静かに聴き入っていました。

引き続き、太陽系の他の惑星や月の探査の話に移り、中でもご自身が深く関わっておられる2006年打ち上げ予定の月探査衛星「セレーネ」に関しては、アニメーションでその様子を見せていただきました。さらに、2012年打ち上げ予定の水星探査衛星「ベピコロンボMMO」という、水星探査では人類史上最大の規模のヨーロッパとの共同研究計画や、2014年のスコープ地球磁気圏探査という壮大な計画に話が及ぶと、生徒の中には、自分たちもその頃には研究者として参加できるのではないかと、興味を抱く者もいました。

生徒からの「先生にとって宇宙とは何ですか」という質問に対し「すべてです。…家族を除くとね(笑)」と答えられた齋藤氏の、苦労しながらも自らの手で作った観測機器からデータが送られてきたときの喜びを熱っぽく語られる姿に、宇宙への興味を触発された生徒も多くいたように感じます。第一線の研究者からの生の声は、普段の授業や学院生活では得られない貴重な体験となって生徒たちの心に深く刻まれたことと思います。

高
等
学
校

21世紀の大学が求めるもの、めざすもの

大阪大学基礎工学研究科長・基礎工学部長
西 田 正 吾 (51回)

2004 年 11 月 27 日
(土)の放課後、甲陽学院高等学校視聴覚教室において、第4回卒業生講演会を開催しました。今回は大阪大学基礎工学研究科長の西田教授をお招きし、「将来大学



で学ぶための心得」「大学の現状」「21世紀の学問の動向」などについてご講演をいただきました。

西田氏は、東京大学工学系研究科電気工学修士課程を終えられた後、三菱電機(株)中央研究所にてシステム技術、メディア技術の研究開発に従事され、1984年から1年間のMIT客員研究員、1995年から大阪大学基礎工学部教授として、主としてヒューマンインターフェイス、ヒューマンコミュニケーションの教育研究に従事してこられました。2003年10月より、基礎工学研究科長、基礎工学部長を務められています。

はじめに、甲陽時代の思い出や甲陽を通じたヒューマンネットワークのありがたさを話された後、「大学で学ぶための心得」として、これからの時代はその人が、どのような知識をもっているか、何をしてきたか、何ができるか、という点で評価されるから、自分自身で自らのキャリアを作っていくことが大切であり、そのためには、大学時代に答えのない問題を解くという経験が必要になる、ということなどを話されました。

次に、「大学の現状」として国立大学の法人化について説明され、国家公務員時代のしがらみから脱却し、それぞれの大学の特徴を強化していく千載一遇のチャンスであると評価されました。

また「21世紀の学問の動向」として、日本発の新しい科学技術の創出が求められること、そのための基礎科学の重要性や異分野の融合による新学問分野創出の魅力などについて、メディア技術の融合の例を映像で紹介しながら説明していただきました。

最後に、「大学というところは自分を磨くところである」「時間は有限、悔いのない学生生活を」「世界を相手に羽ばたいてほしい」との熱いメッセージを高校生に伝え、約1時間のご講演を終えられました。

会員総会第1部

ガチンコ勝負！甲陽健児VS大嶽親方

昨年夏の会員総会には、特別ゲストとして元関脇貴闘力の大嶽親方をお招きしました。第一部では、親方とは小学校時代の同級生だったという朝日放送アナウンサーの上田慶行氏（67回）と関西文学編集長の河内厚郎氏（52回）とが、角界の裏話から大相撲のグローバル化、女性知事の土俵入り、相撲部屋の若者教育などについて大嶽親方にお話をうかがいました。その模様をここに一部掲載いたします。

また、親方には第二部開宴の鏡割りにも参加していただき、多くの同窓生との記念写真にもこころよく写っていただきました。

上田 15年2月に断髪式を終え、16年1月1日、大鵬から部屋を引き継ぎ大嶽親方となった元関脇・貴闘力関と私は神戸市立兵庫小学校時代の同級生ですが、5年生のとき九州に転校されました。14年大阪場所の幕尻優勝を成し遂げた原動力からお聞きしましょう。

大嶽 1月場所が3勝10敗で、あと一番負けたら十両という一番に二子山親方の初代貴乃花に呼ばれ「大鵬親方の顔があるから十両に落ちたら辞めろよ」。残り二番勝ち幕内に残れたので、人に隠れて夜10km走り、トレーニングもそれまで以上に反復練習を繰り返し、翌場所の初日ぎりぎりに体がだいたい反応してくるようになりました。相撲はメンタルなもので、稽古場で百回勝てる相手でも本場所でもポロッと負けたり、絶対に調子がいいと思っても負け越したりします。幕内の上はほとんど紙一重で、図ぬけた横綱以外は土俵に上がってみないと分からない。横綱・大関以外で勝率が五割を超えた力士は、五割一厘で残った自分と琴錦と長谷川の3人です。

上田 親方は貴乃花に憧れ相撲部屋を自分でノックしました。今の子はどうですか？

大嶽 中学校で相撲を取っていると高校でのポジションを考えます。大学まで行って、これなら務まりそうだなと思えば入ってきます。親もせめて高校を出したいと言うけど、高見盛は大学を出るのに掛け算もできない。

上田 えっ、掛け算できないんですか。

大嶽 だって、ちゃんと喋れないじゃないですか（笑）でも一生懸命さを全面にアピールして、悔しいと本当に泣くから、人気はある。

上田 大鵬道場・大嶽部屋を経営しながら弟子を指導育成して8ヶ月。ロシア出身の露鵬が来場所、幕内に上がってきます。

大嶽 相撲はこれからですけど、日本人より骨格がしっかりしているし、アマチュアレスリングでヨーロッパのチャンピオンになったから潜在能力がある。最初につぶかったのは言葉の壁と生活環境の違いでした。日本では挨拶をきっちりとする、先輩を大事にして後輩を可愛がる、人のことは言わず黙々と昔からの稽古を地道にやれば表にはなかなか出ないけど強くなると、四股を3百から5百、鉄砲千回を毎朝やらせます。2年ぐらいて、ちょっと力士らし



河内氏 上田氏 大嶽親方

くなりました。

モンゴルではサラリーマンや学校の先生の月給は5・6千円なのに、関取になって何百万も稼ぐ。モンゴル相撲があるから力士になりたい奴が千人近くいる、その中から4、5人をひっぱりってくるから素質がある。それがまた親に楽しめたいと一生懸命やる。東関親方がアメリカから来た時点で世界に門戸を開いたわけで、今は開いたり閉じたりする感覚ですが、世界の人口の60億に広げれば外国人力士が30人いてもそれはそれで面白い世界になる。国技という形で一番大切な礼節を世界に広めていくいい機会です。日本人がいなきゃ相撲が面白くないと言うけど、それはいい日本人を作ればいいことで、オリンピックでも日本独自のトレーニング方法を編みだしたら金メダルを取れた。映像の権利も1億2千万人より60億から寺銭取ったほうがマルがふえる。相撲を教える人間がたくさんいれば相撲をとる人口もふえて昭和10年・20年代の活気が形を変えて出てくるでしょう。

上田 貴乃花親方が後援会制度をサッカーのようにサポーター制度に変えました。

大嶽 10年後に良かったと思うかどうかは貴乃花の頑張りによります。

河内 整体師騒動というのがありましたが、心の面もサポートしたりするんですか？

大嶽 単純な世界だから神がかり的なところがあって、若いときはすがったりもします。自分も一年くらい肩が上がらないとき、「張りまわしてばかりいるから肩が上がらないんだ」と言われ「そうかな」と思ったけど、原因を追求すればそんなことはありません。

河内 藤島部屋は「がちんこ」でしたね。

大嶽 毎日必死で取ってました。そういうふうと言われるのも相撲人気がなくなる一因で、反論できない先輩方も情けない。ブルガリアのハンマー投げの選手が検査を逃げたのも反論できないからで、明確にクリーンなイメージを全面に押し出さないといけません。

上田 横綱・朝青龍は悪役ふうになって —

大嶽 自分も20歳の頃は千代の富士の顔を10発くらい叩いて「こら」とか言ってたから、まだまだ可愛いかなと思

います。でも後輩は大事にしないとね。左手で懸賞金を取るのは左利きだからで逆鉾もそうですが、本来、神物は右からです。拍手打って手を上げるのも右、四股も右から踏む。「この者の右にでるものはいない」と言うし、土俵へ上がる時も右です。勧進相撲で興行していた江戸時代は何でもありで、2m20cmの力士が顔見世だけ土俵入りだけで終わる場合もあった。もっと前になると雲竜型と不知火型の土俵入りが逆だったこともある。別にどうでもいいんじゃないかな。こそっと「こういうもんだよ」と教えてやればいい。テレビで内館牧子さんがわあわあ言ったから「はい、そうですか」と横綱がなかなかできるもんじゃない。

河内 親方は現役時代、智乃花に鉄拳制裁したとの噂ですが。

大嶽 27歳で先生から力士になる、たいしたもんだなと思っていましたが、人間だから些細なことで喧嘩もします。自分のほうが年は下でも先輩だから。他愛もないことです。あとは言い辛いので止めておきます (笑)。

上田 100人のうち強くならない97、8人のケアはどうするんですか？

大嶽 15歳から連れてきて20、21歳になって将来を考える時期が来たら、自分は三つの方法をとります。よく気が利く手先の器用な、ちゃんこがうまい子は「もう一回修行してこい」と料理屋に出す。相撲を取ってると相手のどこが弱いとわかって攻められるようになるから全体の仕事ができます。テレビのNHK学園で高校の単位を取らせてから3年間、鍼灸や柔道整復師の学校へ行かせます。不器用で何もできない、顔が恐くて人相が悪い子は警備会社 (笑)。犯罪が多い時代に必要な人間だから、給料も2倍とは言わない1.5倍にと社長にお願いします。でも1年2年で辞めたらしょうがないから、外に預けても恥ずかしくないよう生活や稽古は厳しくします。体がでかくて力が強いだけの相撲取り崩れと言われないよう、雰囲気で察して動く人間になれと教えます。相撲取りが一番大事なものは体を使うことと気を使うことです。

上田 去年の大晦日、曙がK1に出たのを観にいきましたが、ボブ・サップとの一戦はえらいことになりました。横綱まで極めたのに。

大嶽 足も膝もぼろぼろで辞めたのに。お金が欲しいからです。可哀そうな面もある。キックボクシングに一番向いていない曙が出てもしょうがない。露鵬のほうが務まります。

河内 お舅さんはどんな方ですか。

大嶽 大鵬という名前にプライドを持っています。幼少の頃サハリンから命からがら逃げてきて貧困の生活を送ったから物を大事にする。冷蔵庫が部屋に8個 (笑)。備えあれば憂いなし、石橋を叩いても渡らない性格が相撲にも表れて、ここで出れば気持ちよく勝てるときでも万全の体制になって出る。

上田 大鵬と貴闘力の遺伝子が合体した息子さんがまた大きいんですよ。

大嶽 上の子は小学校4年で1m60cm、75kg。3番目の4歳は40kgくらいで腕立て20回、走らせても速い。毎朝6時に起きて四股を200回ふませ、走らせてから学校へ行かせます。中学校を卒業した子に高校へ行くより相撲に入れと勧めているのに、自分の子供を入れないわけにはいきません。

河内 大鵬はブランドですから、相撲の名門一家になるこ



第二部開宴の鏡割り

とでしょうね。

大嶽 辞めるとき一銭もなくて大鵬という株をただで貰ったみたいなんですから、人にもただで奉仕する気持ちで頑張ります。ええ思いを自分で貯め込んでも誰も踊りません。

上田 辞めるときに一銭もなかったのは…ギャンブル好きは有名です (笑)。

河内 力士を辞められてから、こんなに痩せましたという“力パワー”のCMに出てはりましたが、今は痩せているようには…

大嶽 150kgから124kgまで痩せましたが、撮影が終わり動かなくなったら飯は美味しいので元に戻ってしまいました。

河内 若い力士は携帯電話を持っていますか。

大嶽 5年前の巡業のとき自分は風紀委員長でした。本当は風紀乱し委員長ですけど (笑) 300人くらい力士を集めて目をつぶらせ「携帯持ってる奴、手を上げろ」9割くらい持ってたので「若い衆が携帯もってどうするんだ」と言うとき代大海が「力関、もうそういう時代じゃないですよ」今さら言ってもしょうがないかなと見て見ぬふりをしています。千代大海も川村ひかるさんと携帯でデートしてるでしょう (笑)。

上田 親方が大鵬親方のお嬢さんと結婚されたきっかけは？

大嶽 死んだ親父が、結婚するときは1m80cmで100kgの女をもらえと言ってたんです。大きい子供ができれば毎日ちりめんじゃこと魚の骨を食わして地上最強の力士をつくるのが親父の夢で、そんなんおるわけないだろうと思ってたら、大鵬部屋の力士についてきた嫁が181cm。俺のファンだと言って付き合うようになりました。しかも男の子が4人。相撲の神様が力士にしると言ってるのかなと。

河内 大鵬親方もお幸せですね。

大嶽 毎日喧嘩ばかりですから、ろくでもない奴に継がしたなと思ってるでしょう (笑)。

河内 女性が土俵に上がる問題は？

大嶽 神様も天皇陛下も女性がいたわけですが大相撲は男尊女卑の江戸時代の形が残った。ずーっときたものを急に变えるのは無意味です。大臣や知事が人気取りでするなら嫌ですね。女性に対して駄目だというんじゃないんですよ。みんな思っているほどはね。

上田 御茶屋さん制度がプレイガイドに、枡席を禁煙にと少しずつ改革していますが、相撲もナイターがあつていいかなと。

大嶽 8時から10時にしてもテレビの視聴率は一緒です。見る番組はいろいろありますから。4時から6時の空いている時間枠を撤廃したらもっと相撲が衰退していくでしょう。

会 務 報 告

平成16年4月1日から平成16年12月31日までの会務報告を申し上げます。

1 はじめに

16年度の同窓会活動は、前年度に引き続き本年度の活動方針に従い、各委員会が活動の主導となり、活発且つ充実した展開を行ってきました。その活動状況と内容につきましては、各委員会の活動状況報告の中でご報告を申し上げます。

この委員会活動で、特に各委員長が意を注ぎ、その実りある成果を挙げつつあるのは、同窓会活動への若手層の参加であります。従来はともすれば仕事の関係もあり、各委員会とも年配者層が中心になりがちでありました。これに対して、先輩諸氏の好リードもありまして、積極的に若手を起用し、先輩・後輩の垣根を取り外し、活発な論議が戦わされ、若手層の新時代に即応した斬新な考え・意見を取り入れることにより、これが大きく同窓会活動の推進力となっています。これにより同窓会の活性化が、年ごとに充実され良い方向に進んでいるものと確信しております。

2 各委員会の活動状況の報告

1. 会報編集委員会

会報編集委員会は、今年7月に「甲陽だより」第70号を発行いたしました。印刷部数は12,000部で、同窓会員および母校の教職員・在校生に郵送・配布しております。

第70号の紙面は16頁で、その内容は下の通りでした。

- 会長による巻頭言（「随想」）
- 特集 大学進学をめぐる（「今年の大学入試を振り返って」「大学入試合格状況」「大学受験体験記」「大学時代を振り返って」）
- 母校情報 退職された先生方のご挨拶「幻と化した『甲陽中学校歌』」
- 清酒「白鹿」酒蔵見聞記
- リレー随想（23回土井省吾氏）
- 会務報告
- 会員だより、訃報、告知板
- 会員総会の案内（「ガチンコ勝負！甲陽健児VS大嶽親方」）

2. 会員総会運営委員会

夏の会員総会その第一部では、朝日放送・上田慶行アナウンサー（67回）の小学校時代の同級生、大嶽親方（元、貴闘力）をお迎えし、甲陽健児代表：河内厚郎（関西文学編集長・52回）対大嶽親方の「ガチンコ勝負」（大相撲新時代へ向けて、角界の教育力や女性知事の土俵入りの是非、外人力士のこれから等）を上田アナの司会で展開しました。角界の裏話（掛け算の出来ない大学出の人気力士の話）などいやみのない話しぶりは概ね好

評だったようです。プロの企画は予定通りの時間で推移しました。

第二部は例年通りのバイキングを味わいながらのパーティーでした。今年から朝日放送の吉本貴雄・美藤一真（何れも76回）の両ディレクターが一部・二部ともタイムテーブルを作成して、一部・二部両会場のスクリーンにすばらしい映像を演出してくれました（貴闘力断髪式・山野井氏と甲子園など）。今年の参加者は230名でしたが、今年はシニア椅子席と立食テーブルの違和感はありませんでした。因みに今夏のホームカミング50年の35回生は過去最高の58名が集いました。

3. 会務運営委員会

*甲陽奨学金ファンド検討部会

「甲陽学院同窓会奨学金ファンド」設立に関して《案》

本同窓会の設立目的は、会則第三条に明確に謳われておりますように、「会員相互の親睦と母校発展への寄与」であり、この二つの目的は同窓会として永遠に追求すべき基本理念であろうかと思えます。会務運営委員会としては、この「母校発展への寄与」という課題に本格的に取り組み幾つかのテーマを検討した結果、学院後輩へ返済無用の「奨学金」を給付するための「ファンド」の創設を提案いたしたく検討を重ねてまいりましたので、ここに中間報告をさせていただく次第です。

先ず、学院の歴史を振り返ってみますと、1920年の創立以来、辰馬育英会は一貫して外部からの経済的援助を一切仰ぐことなく、今日まで有為にして多彩な16,000人におよぶ甲陽健児を世に送ってこられ、この崇高にして確固たる学校経営方針は些かの揺るぎも無いものと信じております。斯様な育英会の基本的なご方針と整合する形で、同窓会が多少なりともお役に立てる分野は、学院生徒を対象にした個別的な支援に絞られてまいります。

本年度の会務運営委員会では、「甲陽ファンド設立検討部会」を組織し、近年はリストラ、大規模災害、交通事故などを含む家庭事情から修学の意味がありながら、継続に困難のある生徒の実例も出てきている世情の下で、より多くのより優秀な学院生徒の輩出に資する「奨学金」の給付に必要な「ファンド」を、同窓生を初め学院関係者、篤志家からの拠出金を原資に組成するプロジェクトの検討に入っております。

ご参考までに申し上げますと、2003年度における甲陽学院高校在校生約600名の奨学金取得状況は、兵庫県の授業料軽減制度の利用者が10名、その他日本育英会、西宮市、神戸市、宝塚市等の行政主導の奨学金受領者がせいぜい15名余りで、いずれも月額1万円から3万円程度であります。（両方を同時に利用している生徒を含みます）。なお、この同窓会奨学金は既存の行政主導の奨学金との併願を認める方向で考えたいと思っております。一方、入学金、授業料のほか、修学旅行積立金等を含めて中学、高校6年間を通じての学校への納入金合計は約510万円になります。この納入金の中には、在校生

の保護者により運営されております「育友会費」が含まれており、この「育友会」は中、高合わせて年間 1500 万円程度の規模で図書購入、プール管理等の生徒活動への補助が行われております。

本プロジェクトの検討に当たっては、多くの同種私立学校の奨学金制度を参考にしてきましたが、我々の指向しております「ファンド」の特徴は、学校法人、あるいは公益法人の形態を採らず、また特定個人・法人の一時的に纏まった拠出金を当てにすることなく、同窓会を母体として母校への報恩・感謝の気持ちをもつ卒業生、関係者から拠出金を永続的に募るところに独自性を見出そうとしております。そして此处に始まる運動が同窓会の「母校発展への寄与」として末永く継続し、我々の母校愛の一端として学院の後輩諸君に受け継がれてゆくことを心から願うものです。この拠出金は、一部は各年度に「奨学金」として給付し、残りを着実に一億円程度まで積み上げ、将来は運用益を給付金に当てることを計画しております。

検討部会では、部会員諸兄のご意見に加えて、同窓の弁護士、税理士等の専門家、現職の教員先生方の意見を聴取しながら、募金の方法、基金の管理・運用基準、そして具体的な給付生の選考基準などを同窓会の枠組みの中で十分に検討し、今年 4 月に予定されております本年度の役員総会での承認に向けて上程の準備を進めていきたいと考えております。

募金要領の詳細については、目下鋭意研究中ではありますが、凡そのところ、個人は一口 1 万円、法人が一口 10 万円とし、同窓会報、甲陽学院同窓会のホームページ（現在整備中）で拠出金を募る一方で、学院中学・高校の入試要領には同窓会としての「奨学金」制度の存在を紹介することを今後は学校当局にお願いしてゆかねばなりません。（他校の入試要領には特待生制度、奨学金制度を明記したところは多数あります。）

検討部会では、委員全員が熱心な討議を続けておりますので、今後ともご支援をお願いすると同時に、ご意見が御座いましたら事務局宛にお寄せください。

* 甲陽アーカイブス検討部会

「甲陽学院同窓会アーカイブス」（仮称）の開設について、次のように中間のご報告をさせていただきます。

1. 構想の経過と設立の趣旨について

平成 15 年度からの会務運営委員会に於て、新時代に即しての同窓会活動は如何にあるべきかとの議論が活発に戦わされました。その中の一つに「甲陽時代の活動状況・母校を卒業されてから一般社会で活躍されている同窓生の業績と活動状況など、その業績（著作・文献・研究資料・作品・映像・活躍状況など）等を記録・集積し、それらの忘却や散逸を防止し、甲陽の誇れる歴史として残していきたい。そして、その取り纏めと記録の保管を同窓会活動の一つとして行うべきではないか。」との構想が議論されました。

そこで、昨今テレビなどで映像として放映されている「アーカイブス」の名称をつけた「甲陽学院同窓会アーカイブス」（略称・甲陽アーカイブス）を立ち上げ、こ

こにこれら業績の記録・映像・作品の現物（著作・目録など）、母校創立時からの古い写真等を同窓会として集積し、検索可能な状態にすることを目的として、「甲陽アーカイブス」の開設を実現化したい。（勿論、集積・保存については、ご本人の承諾を得ての事です。）

同時に上記の情報の収集法の一環として、また同窓生の同窓会への結束と情報伝達手段である会報「甲陽だより」（年・2 回発行）を補完・活用し、遅滞のない素早い情報の発信基地として、「甲陽学院同窓会・ホームページ」の機能も正式に併設出来ればと考えます。なお、現在会報に掲載の「甲陽ホームページ」のアドレスとの関係もありますので、問題点などを摘出して双方を生かせるよう調整したいと考えます。

上記の趣旨から、ホームページ開設に必要な汎用ドメインと漢字の使用できるマルチドメインの取得登録申請を、とにかくにも早急に申請する必要が生じてきました。この理由は、最近の傾向として全国的に名前がとおる「甲陽」の名称は登録されやすく、先に第三者に「甲陽」という名称・アドレスを登録取得されないが為であります。勿論、この構想が実現できなければ、登録取得は取り消す事になります。よって、念の為に平成 16 年 9 月末に下記のドメインの登録のみ完了しました。

* 汎用ドメイン：koyogakuin-oba.jp
（世界中から使用可能）

* マルチドメイン：甲陽学院同窓会.jp
（日本国内でのみ使用可能）

2. 開設時期について

平成 17 年 4 月頃を予定。（役員総会での承認後）

3. 「甲陽アーカイブス」の運営と管理

組織として、新しく常設の「甲陽アーカイブス委員会」（仮称）の設置（会則の改定を要す）を行い、その中で「甲陽アーカイブス運営プロジェクト部会」（仮称）、並びに「甲陽ホームページ運営プロジェクト部会」（仮称）の 2 部会を立ち上げて、その維持・運営・管理と内容の充実を行う。

この委員会は、会則で既設の委員会と同様に、その管理主体は会長をトップとする常務理事会であり、その運営・管理の指示を得て、必要ある時には適宜に常務理事会に状況報告を委員会が行う。また、理事会・役員総会に対して、その年度の活動状況の報告を行い承認を得る。

4. 「甲陽アーカイブス委員会」（仮称）のメンバーについて

会則により、会長が委員を選任する。但し、この委員会のメンバーは、専門的な知識・技能を必要とし、その委員会の持つ性格から各卒業回の情報に精通する人を必要とする。また「甲陽アーカイブス」の活動に理解があり、更に熱意と意欲のある方でなければならない。よって、一つの方法として公募・推薦で募集する事もあり、これを会長が選任することも考えられる。

5. 運営・管理の費用

当面の必要経費は、

- ドメインの申請費用 ……………8,379円
 - ドメインの維持・管理費
……単価2,100円×2×12カ月=50,400円
 - レンタルサーバー初期設定費 ……………10,500円
 - レンタルサーバー賃借料
………単価4,725円×12カ月=56,700円
- 初期費用は別にして、通常の年間の維持・管理の必要経費は107,100円程度と推定される。

6. その他について

*役員総会で承認を得るまでは、「甲陽アーカイブス」構想の細部と運営・維持・管理等の詳細についての検討は、会務運営委員会の下部組織として「甲陽アーカイブス検討部会」を設け、その詳細の検討を部会が行う。部会は、その検討結果を会務運営委員会に答申を行う。会務運営委員会は、現在までの経過とその目的・運営・運営方法など、及び設立の是非を常務理事会と理事会に報告を行い、来年の役員総会で承認を得る手続きを取る。

*役員総会で開設の承認を得た後は、会務運営委員会の下部組織から独立し、他の常設の委員会と同様の組織・運営形態となります。(会則で文言の追加を必要とする)

3 平成16年度(12月末日現在)の会計報告について

当年度の収支状況は、収入面に於いて年会費・終身会費については、末尾記載の「12月分収支集計表」の通り、ともに予算額を大きく上回る納付状況となっています。これは理事・評議員の方々をはじめ、各卒業年次の幹事の方々をお願いをしまして、年会費・終身会費の納付促進に動いて頂いたお陰であります。そのご苦勞に対しまして、有り難く感謝を申し上げます。支出面では、予算の範囲内に収まるように意を注ぎまして、概ねその範囲内に終始しています。今後とも、経費の節減に努力を致します。

4 その他の事項

この9月25日に、陸奥の仙台で東北支部(東北甲陽会)が誕生しました。今後の活躍に期待しています。遠く札幌の地でも、新しく支部結成の動きが始動し始めています。これらは「新会員名簿」に新しく設けました「地域別索引欄」が活用されていると聞いています。今後とも各地域での支部(地域甲陽会)結成を支援していきます。(事務局・有田)

●平成16年度 12月分収支集計表●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	12月分	累計4-12月分	予算額	科 目	12月分	累計4-12月分	予算額
会 費	132,500	6,295,395	9,200,000	人 件 費	309,840	1,614,800	2,116,000
※年 会 費	51,000	2,423,395	1,200,000	※月 手 当	128,000	1,152,000	1,536,000
※終 身 会 費	56,500	3,447,000	2,500,000	※夏 冬 手 当	160,000	260,000	300,000
※新卒入会金	—	—	600,000	※通 勤 費	21,840	202,800	280,000
※新卒年会費	—	—	1,400,000				
※新卒終身会費	25,000	425,000	3,500,000	交 通 費	0	78,635	100,000
会報広告料	0	20,000	40,000	需 要 費	5,335	420,998	630,000
総会会費収入	0	735,500	700,000	※通 信 費	5,335	356,523	500,000
利 子 収 入	0	1,077	20,000	※事務用消耗品費	0	64,475	80,000
				※備 品 費	—	—	50,000
雑 収 入	4,500	36,000	0	会 議 費	372,027	3,040,349	3,050,000
寄 付 金	0	44,500	0	※会員総会費	0	1,838,795	1,700,000
				※役員総会費	—	262,293	300,000
収入合計	137,000	7,132,472	9,960,000	※理 事 会 費	181,782	304,212	350,000
				※委 員 会 費	190,245	635,049	500,000
基本金解約	0	0	0	※懇 談 会 費	—	—	200,000
繰 越 金	0	6,591,987	6,591,987	事 業 費	0	1,958,977	3,640,000
				※甲陽だより	—	426,195	1,200,000
合 計	137,000	13,724,459	16,551,987	※郵 送 料	—	755,162	1,400,000
				※振替用紙代	—	65,835	120,000
◎平成16年12月末日現在 現預金残高明細				※封 筒 代	—	81,585	120,000
*三井住友銀行(普通預金)	1,098,598円			※記念品代	0	490,200	600,000
*郵便局(普通預金)	313,690円			※母校後援費	0	140,000	200,000
* // (振替通知票)	3,483,530円			雑 費	47,253	336,330	350,000
*三菱信託銀行(普通預金)	1,273,624円			※校 内 志	20,000	40,000	50,000
*手持現金	104,928円			※慶弔その他	0	84,494	100,000
合 計		6,274,370円		※振 替 料	1,450	78,820	100,000
				※その他雑経費	25,803	133,016	100,000
◎平成16年度12月分収入件数の合計と累計				支 出 合 計	734,455	7,450,089	9,886,000
科 目	件数	累計		特別創立金積立	—	—	50,000
寄 付 金	0件	4件		新卒会費納入	0	0	0
年 会 費	14件	869件		予 備 費	0	0	6,615,987
終身会費	3件	65件		支 出 総 計	734,455	7,450,089	16,551,987
新卒終身会費	1件	17件					
(H15年度追加)				収入総計	—	13,724,459	—
広 告 費	0件	1件		支出総計	—	7,450,089	—
総会会費		207件		翌月繰越金	—	6,274,370	—
雑収入	1件	8件					

(単位:円)

●終身会費・各回別納付金額設定表●

回 生	金 額	回 生	金 額	回 生	金 額
1回	10,000	33回	10,000	65回	25,500
2回	10,000	34回	10,000	66回	26,000
3回	10,000	35回	10,500	67回	26,500
4回	10,000	36回	11,000	68回	27,000
5回	10,000	37回	11,500	69回	27,500
6回	10,000	38回	12,000	70回	28,000
7回	10,000	39回	12,500	71回	28,500
8回	10,000	40回	13,000	72回	29,000
9回	10,000	41回	13,500	73回	29,500
10回	10,000	42回	14,000	74回	30,000
11回	10,000	43回	14,500	75回	30,000
12回	10,000	44回	15,000	76回	30,000
13回	10,000	45回	15,500	77回	30,000
14回	10,000	46回	16,000	78回	30,000
15回	10,000	47回	16,500	79回	30,000
16回	10,000	48回	17,000	80回	30,000
17回	10,000	49回	17,500	81回	30,000
18回	10,000	50回	18,000	82回	29,000
19回	10,000	51回	18,500	83回	28,000
20回	10,000	52回	19,000	84回	27,000
21回	10,000	53回	19,500	85回	26,000
22回	10,000	54回	20,000	86回	25,000
23回	10,000	55回	20,500	高商・1	10,000
24回	10,000	56回	21,000	高商・2	10,000
25回	10,000	57回	21,500	高商・3	10,000
26回	10,000	58回	22,000	高商・4	10,000
27回	10,000	59回	22,500	機械・1	10,000
28回	10,000	60回	23,000	機械・2	10,000
29回	10,000	61回	23,500	造船・1	10,000
30回	10,000	62回	24,000	造船・2	10,000
31回	10,000	63回	24,500	工業・1	10,000
32回	10,000	64回	25,000		

※80～86回は前納年会費以外に上記の金額となります。

(単位:円)

会員だより



21回 第32回 橘会

平成 16 年 11 月 2 日 (火曜日)、少し曇っていましたが、11 月としては暖かな一日、第 32 回目の橘会を、今年は昨年予告したように、JR 芦屋駅前のホテル『竹園』で開催しました。昨年までの「宝仙花」は、阪急「逆瀬川」から少し歩かなくてはなりませんでした。今年は駅前で近いこともあって、定刻前に全員集合しました。会場は 3 階グリの椅子席、人数の関係で多少御不満があったかも知れませんが御辛抱ください。ビールや酒も、まああめの分量だったかと思います。開会に先立って、この 3 年間でたく無事故であったことなど、事務的な報告のあと乾杯、それぞれが近況報告を兼ねて歓談いたしました。参加者 11 人は近年にない盛況です。入間田君にお世話願った写真は、左から比留間敏男・西嶋謙二郎・森岡甲子男・樋口達彦・筒井 潤・林 信男・井川登・一色 皓・井本幸雄・濱口博章・入間田謙佑の 11 名です。

来年 33 回目の橘会は、平成 17 年 11 月 1 日 (火曜日)、場所は本年同様。JR 芦屋駅前のホテル『竹園』と決定しましたので、一年先の予定をお願いします。幹事は引き続き私がさせていただきます。序でながら『竹園』の社長は、関西学院高等学校で、林 信男君がクラス担任だったそうです。(濱口 記)



24回 桜組 さくら会

12 月 15 日、大阪梅田、アクティ 27 階の「多幸梅」にて、例年通り、忘年会を兼ねてクラス会を持ちました。日本人男子の平均年齢に近づきつつありますが、何や可や云い乍らも、それぞれに元気です。出席者、浅田昭三、奥井和致、長田俊夫、小原英治、小林正明、清水克己、武内清雄、田中晃一、前野和郎、山根 嵩、以上 10 名です。



25回 25R会

平成 16 年 10 月 28 日 梅田ホテルグランビア「北京」で第 24 回の 25R 会を開催し 15 名が参集しました。当日は平日であったので未だ現役で参加出来なかった人 5 名体調不調者の 3 名が欠席で、例年に比べや、少なくなったのが残念でした。

1 年間の「よもやま話」に華が咲き瞬く間の 3 時間でした。

ゴルフ、趣味に余生を送るも良し、変化の激しい世代に遅れを執らぬ為パソコンの操作もまた良しとして健康に留意し、来年の再会を約し体調不調者の早い快復を願いながら散会しました。

後列左より黒岩、田邊、田村、渡瀬、湯川、高田、北邨、山中、高橋。前列左より脇田、朝倉、松宮、菅、矢野、大野 (高橋 記)



25回 桜組クラス会

平成 16 年度桜組クラス会を、平成 16 年 10 月 7 日(木)、大阪北新地のパーティ パークで開催しました。

本年は、10 名の出席でありました。山形県鶴岡市から小田圭昭さんが、宮崎県宮崎市から山本喜典さんが、遠路遙々参加されました。当初、14 名の出席予定でありましたが、病気や体調不良等のため、出席出来なかった方があり、10 名になりました。

平成 16 年 4 月 16 日、肝臓癌のため逝去された波々伯部憲作さんのご霊前に、クラス会の名前でお花をお供えし、謹んでご冥福をお祈り申し上げた事が報告されました。

次に、ライフワークとして、「食育」の普及に熱心に取り組んでおられる渡辺正雄さんに、「食育のおもちゃの話」をして頂きました。渡辺さんは、NABE LAND 栄養教育媒体工房を主宰し、「子に継ごう、食の心とよい習慣」をテーマに、バランスのとれた食事と、食べ物がお腹に届くまでのことなどを学ぶ「食育」を、自作のおもちゃを使って、保育所や PTA の集会等で、講演活動をしておられるので、お願いして話を頂きました。

出席者の近況報告では、賑やかな応酬が続き、和気あいあいの中で、楽しい一刻を過ごしました。

最後は、恒例の校歌及び応援歌の大合唱で締めくくり、来年の再会を約束して散会しました。

来年のクラス会は、本年と同じく、北新地パーティ パークで、10 月のウィークデイに開催を予定して居ります。

今回の出席者は、小田圭昭、河村郁夫、錦織達郎、藤本健一、宮原晃一、瑞穂光信、山本喜典、若松申一、渡辺正雄、安達正昭、以上 10 名でした。(安達 記)



35回 卒業50周年記念の集い

ギリシャ・アテネでオリンピックが終盤を迎えていた8月28日。恒例の同窓会総会が、ノボテル甲子園で開かれた。

その総会に、ホームカミング学年としての35回生50名近くが、東京をはじめ遠方各地からも集まり、懇親会の中では古希近いとは思われないほどの声で、中学校、高校の校歌を高らかに歌った。

総会終了後、新たに数名が加わり56名が同じホテル内の「レオンヴァーグ」に会場を移して、「卒業50周年記念の集い」を開いた。

私達35回生は、昭和23年(1948年)春、香榎園浜にある中学校にいが栗頭で入学、昭和29年(1954年)甲子園の高校の学び舎を卒業した。その6年間、A組、B組、C組とクラス替えのないまま過ごした学年である。これまでに各組が、時折、それぞれのクラス会を開いていても、学年一同が集まるのは何年振りであろうか？

午後5時半、記念撮影のあと早川幹事の挨拶で「35回生の会」が始まった。

東京からの安部君の乾杯の発声に続いて、この50年間に逝くなられたご担任いただいた先生方及び学友15名の冥福を祈って黙祷をささげ、歓談タイムに入った。

昭和20年代にタイムスリップして、数名ずつに分かれた各テーブルでは、いろいろな話題が飛び交っていて、年令的には申し分ないが心はいつまでも青春そのものであった。騒がしいと言ってもいい程の歓談タイムだったが、中断しての「ちょっと一言」では、地元の澤井君、千葉からの内田君、姫路からの神保君、ロサンゼルスからの若林君のスピーチに耳を傾けた。

10代の多感な青春時代を過ごした甲陽では、素晴らしい先生方と出会い、勉学にスポーツに、苦楽を共にした良き友人を得た刻(とき)であったことを、あらためて感じさせたのである。

午後7時半、広本君の挨拶と万歳三唱でお開きとし、記念写真と記念品を手に、再会を約して散会した。

ちなみに、記念品は、六甲の山並みを背景にして、甲子園に在った高校校舎に甲山と茅渚の波濤を配して甲陽



時代をイメージした七宝製のペン皿で、卒業50周年を記念して作製したものである。

出席者の記念写真一葉を添えて報告とします。

(塩谷洋一 記)

42回 東日本在住同窓会

9月10日(金)6:30PMより浜松町のイタリアンレストラン「サンミケーレ」にて開催

出席者 計20名

中川経治先生(喜寿)

小倉より滝本武、大阪より矢吹宏、

静岡より木村一郎及び岩手より森澤良久

在京 稲野昌夫、飯田潔、岡田洋三、川口昭弘、

籠田哲夫、川崎紀夫、澤田靖士、辻卓史、

橋本進介、真野邦彦、水野学、矢野隆昭の

諸氏

幹事 奥山純、西清豪、小味渕博雄

この6月に亡くなられた川上万寿夫君などへの黙祷の後、滝本君による乾杯の音頭で同窓会が開始されました。

今年62歳を向かえ、現役又自由な身分になられた方々一人3分の割り当てをオーバーする人が続出で皆元氣な報告がありました。最後に校歌を斉唱。元東京會館に勤めていたこのレストランのシェフが“感激しました”と言う程甲陽の校歌はいい歌のようです。

最後に辰馬育英会についての幹事3人それぞれの思い出は、

1) 中学校の時、机を新しくしてくれて嬉しかった。

2) 卒業記念に植樹の代金を寄付すると言ったところ、そんな無駄なものは必要ないと断られた。

3) 授業料が非常に安かった。

等などでありました。

この年齢になり甲陽に学び集った我々の学生時代をバックアップして頂いた辰馬育英会に改めて感謝申し上げます。

(小味渕 記)



48回

去る7月21日(水)の夕刻、48回卒の学年同窓会を本町で開催しました。ここ5年は毎年7月に開催しており、今回も中島久先生、静利一郎先生をお招きし総勢27名の参加をみました。それにつけてもこの日お元気で、私ども団塊の世代にいつも通りの暖かいエールを送って下さった中島先生が2カ月後に亡くなられるとは！、残念な気持ちで一杯です。ここに48回生一同、これまで先生に戴いた様々なご恩に対して感謝すると同時に心より哀悼

の意を表します。

会の方は、静先生からも心身の健康に留意するようにとの励ましのお言葉を戴いた後、今回横浜から日帰りで参加してくれた中西さんを皮切りに、東京から初参加の志岐さん、久方ぶりの濱中さんと一人ずつの報告となりました。

最後に両先生を中心にクラス毎、続いて全員で写真を撮り、来年の再開を約してお開きとなりました。



62回 今年も開催 ミニ同窓会！

昨年に引き続き、11月26日にミニ同窓会を行いました。今回も電子メールアドレスを知らせて頂いている諸君に対し、メールにて呼びかけたところ、石倉、今、栗栖、国府、谷向、中村（登）、平野、前中、吉岡、渡部（吉）、渡瀬と昨年の7名を上回る11名の参加を得ました。家庭や仕事、果ては髪が最近減ってきているやらないやら、様々な話題が深夜まで乱れ飛びましたが、やはり先日お亡くなりになった中島先生の話題が中心になりました。

2005年末にも同様の開催を考えておりますが、連絡費用などの理由から、ミニ同窓会はメーリングリストによる案内のみを考えております。現在120名程度の登録がありますが、緊急な連絡はもちろん、日常的な交流や簡易な連絡方法を確立の観点からもメーリングリストの整備を行っておりますので、本記事をご覧になった同期の諸君は是非<http://www.watase.info/>にアクセスし、ホームページから渡瀬まで連絡先メールアドレスをお知らせ下さい。

尚、2006年1月2日にはノボテル甲子園にて通常の同窓会を行うよう準備を行っております。こちらにも是非参加をお願いします。

東北甲陽会

同窓会東北支部（通称東北甲陽会）発足!!

昨冬発行の同窓会名簿から、都道府県毎の在住・勤務者の名簿が巻末に掲載される事となり、大阪・東京以外でも同窓会支部の発足される機運が高まって参りました。そこで、東北6県の在住・勤務者でも同窓会支部を立上げる事となりました。

同窓会名簿より東北在住者33名の方々にご案内を差し上げたところ、合計8名の出席を頂く事が出来ました。大会は、9月25日(土)正午より、仙台ガーデンパレスホテ

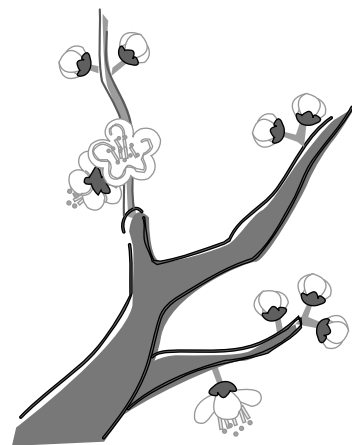
ルで開催致しましたが、本部より遠路平田豊会長にもご出席を賜り、発起人代表の尾山啓二氏のご挨拶から始まり、平田会長からのご祝辞も頂き、先日亡くなられた中島久先生のご冥福をお祈りし全員で黙祷を捧げました。その後乾杯を行い、出席者各自の自己紹介では、各々の甲陽時代の懐かしい話で、少人数でありましたが、和やかに且つ盛り上がり、誠に楽しい大会を進める事が出来ました。

2時間の予定がアッと言う間に終盤に差しかかり、最後は全員で肩を組み合い、学院歌を斉唱し、最高の盛り上がりを見せたところで閉会となりました。

今後は、毎年春秋に東北甲陽会を開催する事とし、益々同窓の親睦を深めていきたいと思いますので、東北在住・勤務者の方々は、どうかどしどし参加して頂ければと思っております。なお、支部役員は、以下の如く決まりましたので、今後転勤などで東北に来られた方は、役員までご一報頂けると幸いです。当日出席者：来賓・平田豊同窓会会長様。

今野英一（18回）、尾山啓二（35回）、林信行（39回）、森澤良久（42回）、青井秀夫（42回）、原田猛雄（61回）、渡辺雅一（62回）、中島孝（66回）。

支部役員：支部長尾山啓二、副支部長林信行、青井秀夫、会計渡辺雅一
(渡辺雅一 記)



追悼 中島 久先生



昭和27年から平成3年まで39年にわたって母校で歴史の授業を担当され、昭和57年からは教頭も務められた中島久先生が昨年9月15日に逝去されました。また先生は、同窓会の副会長としても長年にわたり本会の発展にご

尽力なさいましたことは皆様よくご存じのとおりです。謹んでご冥福をお祈りいたします。

ここに、もとの同僚として旧職員の林歳明先生、同期生として平田豊同窓会会長、中島先生がはじめて担任をもたれた38回生から西田武史氏、先生の最期に立ち会われた医師の山崎要氏（48回）、先生が最後に担任をされた62回生から渡瀬誠氏、以上5名の方に中島先生の思い出を綴っていただきました。

ありがとうね 中島久先生

林 歳 明（旧職員）

おうい、キュウさあん、いや、ヒサシさあん、いちばん心安まる御自宅で、いちばん身近な御家族に見守られての、大往生、と伺いましてねえ。もう、これからは、一所懸命に駆けずり回られた甲陽学院のことは、多くの教え子たちやらに任され、今までずっと縁の下の力持ちの御遺族の方々を、今までの、何倍も、何十倍も、何百倍も、見守って上げて下さいよう。

甲陽学院54回生が、12月30日に、甲子園で、故中島久先生をおしのびする催しを持ちました。30数名が集えました。冒頭の言葉は、その席上、私がしめくくりのあいさつで、故中島久先生に呼び掛け申したものです。

私は、昭和42（1968）年度から、縁あって、甲陽学院の教壇に立てましたが、甲陽学院関係者として最初に私に接して下さったのが、故中島先生でした。甲陽学院中学校に近い先生なじみの店でのひとときでしたが、すうっと気持ちを楽しんでいただけました。さらに、前述の54回生を6年間ずっと受け持つことになりましたが、その学年主任が先生でした。すっきりとあかぬけのした着こなしでした。品のある、明るい、気さくな感じでした。

甲陽学院が好きで、教え子を初め人が好きで、行動的な方でした。同窓会という同窓会に元気な姿を見せておられました。同じ日に二組が重なって、第一会場から第二会場に駆け付けというのも、たびたびでした。阪神間だけではなく、はるばると名古屋や東京やにも身軽に出向いておられました。教え子一人一人の進路にも、その保護者や兄弟姉妹やの安否にも、豊かな情報を持っておられ、びっくりでした。甲陽学院の一層の成長を目指して、洛星、東大寺、星光、灘、関学の各校との交流や情報交換にも積極的でしたねえ。

さあ、もう、御遺族に集中ですよ。

中島君を悼む

同窓会会長 平 田 豊（22回）

「棺を蓋いて事定まる」という古語がある。人の真価はその最期の時に表われると云う意味であろうが、中島君の葬儀に参列した多くの教え子達の姿を見ながら、私はその言葉を思い出していた。ご令室様とお嬢様のご挨拶も良かった。亡き夫を思い父を偲ぶ気持ちが我々の心を打った。悲しい厳粛な中にもほのぼのとした安らぎが伝わった一時でもあった。多くの人々の敬慕の念に包まれながら、彼は安らかな眠りについたのだらうなと感慨無量であった。

思えば、彼とは昭和13年、旧制甲陽中学に入学して以来の付き合いであるが、本格的な付き合いが始まったのは、私が甲陽学院同窓会の会長を引き受ける事になってからである。

或る日、彼から誘いがあった。彼が属した桃組の有志達が集まって、旧交を温める会が毎月一回ある。君は梅組であるが、特別ゲストとして迎えるから出て来ないかという誘いであった。今にして思えば、同窓会の会長として色々な人の意見を聞いて、それを会の運営に生かしたらどうだと言う彼なりの配慮からであった。同期生に広く呼びかけて、会長を励ます会を開いても呉れた。

困った時の良い相談相手にもなって呉れた。君は何も知らんなど云うのが彼の口癖であったが、それでも嬉しそうに質問に答えて呉れた。陰に陽に私の会長職を支えて呉れたその厚誼を忘れるわけにはいかない。

この追悼文を書くにあたって、桃組放談会の世話をしているS君が、彼の人柄、生きざまを総括して呉れた。恐らく我々同期生の最大公約数的意見であろう。

以下の通りである。

1. 天性明朗闊達なりアリスト。好奇心も旺盛である
2. 一見書斎派のようにみえるが、動きの速い行動派
3. 他人の為に行動する事を自らの生き甲斐にする
4. 他人の行動に対して率直な批判をする。その為の一部の人には敬遠されることがあるが、憎めないところがある。

一生懸命生きている割には不器用なところがあって、損をしていたのではないかと思う事もあるが、ともあれ多くの人々に強い印象を残して彼は逝ってしまった。今の時代に79才の生涯は短いと思うが、彼の安らかな眠りを祈りたい。 合掌

故 中島先生の思い出

西 田 武 史（38回）

中島先生は、自分の記憶では昭和27年に歴史の先生として赴任して来られ、その年の二学期から前任の先生が入院加療が必要となったので、我々38回生2年B組の担任になられました。いつもスリッパの音を響かせながら天を向いて颯爽として教室に入って来られ、今日はどんな楽しく面白い話をして頂けるのかと皆期待していた

ものです。その容貌、立居振舞から、失礼ながら「ダチョーさん」とあだ名を付けさせて頂きましたのも我々の学年であったと記憶しています。

授業では、文部省検定の教科書を使わず、市販の「物語世界史」が教材で、中学生に対して歴史に興味とロマンを持たせることに留意されていたのだと思います。お蔭様で、成人してから海外勤務の合間にモヘンジョダロ・メソポタミヤ・ローマの古代遺跡などを訪れては先生に報告させて頂いたものです。

しかし、中島先生が我々の尊敬を集めていた最大のポイントは授業を離れたところにあったと思います。その一つは、中学卒業を控えて親が鹿児島へ転居した生徒を卒業まで2ヶ月間、新婚生活を始めたばかりのご自宅に寝食賄い付きで預かれたこととか、社会人になってお金に困った教え子に融資をされたり（結局は不良債権になってしまった）とか、いろいろありますが、基本的に困った者にはとことん相談に乗っておられたものでした。又、先生は皆様ご承知の通り、教え子とのお酒を囲んでの談笑に本当に喜びを感じておられたようで、必ず近況を報告させられたものでした。ビールから始まり最後は日本酒で終わるのが常でした。加齢とともにお酒にも弱くなられ、駅を通過することたびたびあったとのことで、奥様にはいつも心配をかけたのではないかと思います。これまで先生が自由奔放に活躍されたのは、賢明で控え目で理解ある奥様と娘さんの絶大な信用とご協力を得ておられたからだだと思います。先生には、今年に入ってから葬儀用の写真を用意されたり、葬儀社と仮契約をされたり、何か予感されていたのかと思われてなりません、朝まで元気におられ昼頃逝かれたのは、常日頃「逝く時はころっと逝きたい」と言っておられた通りで、本当に希望通りの大往生であったと思います。ダチョー先生、心よりご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

大 往 生

山 崎 要 (48回)

中島久先生の最期に接した者の責務と考えその様子を御報告致します。平成8年頃に弓部から下行にかけた胸部大動脈（大動脈は心臓から上方に出て頸部で弓のように曲がり腹部の方へ行きます）に動脈瘤が出来ている事が判り、色々な大学、病院で診察を受け手術を受けるかどうか、ずっと逡巡されていました。内科医の私は手術に関し何の助言も出来ず只、血圧のコントロールだけをしていました。昨年の夏“やっぱり手術は止めとくわ”と言われました。それから余り時を経ない9月15日午後1時前、奥様から、何時もの昼寝と様子が違う、診察して欲しいと連絡があり1時10分に参上しました。しかしこの時既に永眠された先生のお姿がありました。御自分のベッドの上で下着姿で、苦しまれた様子は一切無く、本当に眠っておられる様でした。奥様に何うと何時もの通り朝食を摂られ、原稿を書いておられた様です。解剖をしておらず確実ではありませんが、瘤が急に上方に進展して脳に行く血流を遮断し、一瞬にして亡くなられたのだと思います。生前に希望されていた通りの大往生で

した。一段落した後、奥様と葬儀の準備を始めました。驚いた事に生前に葬儀社の方ともある程度の相談をしておられ、又枕元の小机の中には奥様に内緒で準備された葬儀用と思われる写真まで入っていました。奥様には心配を掛けるまい、しかし死んだ後の混乱が出来るだけ少なくなるよう準備しておく、と言う深い御配慮を感じ何とも御立派で、ひとかたならない奥様思いに感銘しました。通夜、告別式とも大変多くの方が参列されました。“どうや山崎！さすが中島先生やろ！見事やろ！”と何時もの先生の御声が聞こえるようが気がしました。先生からこれまで頂いた数々の御厚意に加え、見事な大往生まで見せて頂いた事を深く感謝し、御冥福をお祈りして私の報告を終わらせて頂きます。

中島久先生 ありがとうございます

渡 瀬 誠 (62回)

昭和50年、中学校に入学した日の1年A組、白髪の先生が背筋を伸ばしキリッとした態度で私の前に立ったのが中島先生でした。教室ではまず甲陽の歴史、校風や私たちがとるべき態度など、『君たちは、ですなっ』ではじまるあの口調で毅然と話しかけられたことを今でも鮮明に記憶しております。甲陽生としての私たちの生活態度に厳しく、常に甲陽を誇りとする先生でした。社会の授業では、いつも手を後ろに回し背は伸ばしつつも30度前傾、目は大きく見開き私たち生徒の方を向き、教壇の右端から左端までいっぱいを使い足を伸ばし歩きながら簡潔な言い回しで語られていました。そういえば先生の似顔絵にダチョウの体をくっつけて講義中の姿を上手に描くやつがおり、当時かなり流行っておりました。

厳格な反面、私を含め多くの生徒は先生に『だめじゃないですか』と優しく言いながら抱え込まれ、頭をペチペチと叩かれました。緊張と緩和、それと信頼、多感な中学・高校生時代に父親役と母親役とを同時に演じ、私たちの生き方そのものにも影響を与えた先生でした。先生は卒業後も私たちに声をかけ続け、見守ってこられました。私も卒業後何度か先生とお会いしましたが、7、8年前だったでしょうか、同期数人とともに神戸にて先生と食事をした際、変わらない私たちへの叱咤激励に30歳台半ばの私は、先生の前では未だ一人前とは言えない恥ずかしさにも似た気持ちの一方で、先生の大きさ、温かさで再会でき甲陽時代を懐かしく思う一日を過ごすことができました。

そうした先生も最近の同窓会では、『社会で貢献できるような歳になった』とようやく私たちを認めてくださるようになりました。40歳を超えたこれから私たちの姿を見ていただき先生から褒めていただけるように頑張ろうと思っていた矢先の急な知らせに、えっ、としか言うことができない何とも表現しがたい気持ちでいっぱいです。しかし、中学、高校、大学、更には社会人となつてからも私たちが先生から教えて頂いたことは、私たちが子供に、後輩に伝えていきますので、ずっと私たちのために走り続けた先生は、少し足を止め、ゆっくりとお休みください。中島先生、ありがとうございます。

高井 悌三郎先生 逝去



平成15(2003)年11月18日に腰痛で赴かれた西宮協立病院に入院、翌16年7月22日退院して自宅で静養、9月2日再入院、28日に逝去されました。御遺志でご葬儀は近親の方々のみで行われました。会葬のために皆様の貴重な時間を割いていただいていたといけないとの堅い

ご指示です。温厚・篤実な先生の、時に見せられる最期の厳しさでした。

先生は、明治44(1911)年1月3日富山県射水郡伏木町(今の高岡市)で誕生され、県立高岡中学校から第四高等学校を経て京都帝国大学文学部史学科に進まれ、昭和9(1934)年3月に卒業。ただちに茨城県に赴任され、水戸第二高等女学校及び茨城県女子師範学校を経て、茨城師範学校教授として戦時下に教鞭を執るかたわら、常陸の古代・中世遺跡を調査され、茨城県史蹟名勝天然記念物調査会委員もつとめられました。戦後の昭和22年に新制度で再発足した学校法人辰馬育英会甲陽学院に嘱望されて転任し日本史を担当されました。かたわら、昭和24年から10年近く兵庫県史蹟名勝天然記念物調査委員として県内の古代・中世の遺跡・遺物を調査され、その後も昭和46年から兵庫県文化財専門委員・兵庫県文化財保護審議会委員などをつとめられました。昭和51年3月、甲陽学院を定年退職された後、7月から新たに設立された財団法人辰馬考古資料館の常務理事・初代館長として、開設準備と開館後の運営に腐心されました。この資料館は、おもな収蔵品を銅鐸を中心とする考古学資料及び富岡鉄斎晩年の諸作品を中心としており、各専門家の協力を得て、知名度を高めるに至っています。平成13(2001)年10月に館長を退任され、晩年を甲陽園駅に近い神原町で過ごされました。

先生の学問的業績としては、昭和19年に刊行された『常陸国新治郡上代遺跡の研究』は、日本における最初の古代地方官衙・寺院遺跡の本格的な総合発掘調査報告として、学会の注目を浴びました。戦後昭和23年に発足した日本考古学協会の創立会長であり、歴史考古学の一流の研究者として高く評価されていました。西宮では、

訃報 吉本 哲先生



昭和36年から57年まで数学を担当された吉本先生が昨年12月31日逝去されました。故人の遺志により家族だけで葬儀を済まされ、弔問もお断りになるそうです。次号に同窓生からの追悼文を掲載いたします。

田岡香逸・宮川秀一両氏とともに3人で甲陽史学会を結成し、兵庫県下の古代・中世の遺跡・遺物の研究に携わられ、昭和29年の兵庫史学会の発足に際しても創立委員、のち同会評議員としてもかかわられました。甲陽学院高校地歴部・中学社会部の生徒たちやOBを伴い調査されたのは、西宮市越水遺跡など阪神間・神戸、播磨、昭和33年12月から10余年かけた伊丹廃寺跡(報告書は『摂津伊丹廃寺跡』)、さらに淡路・丹波・但馬など、兵庫県内及び茨城県内の遺跡が数多くあります。教室のみならず調査現場でも教えを受けた甲陽生から、多くの歴史学研究者、とりわけ考古学・古代史専攻者が輩出・活躍中で、現在の甲陽史学会(第2次)を構成しています。昭和40年から『伊丹市史』『茨城県史』の編纂にも携わられ、昭和45年以降に宝塚市・尼崎市・伊丹市などの文化財審議委員もつとめられました。多くの著書・論文名は『甲陽史学会著作目録』(昭和60年)に掲載しています。

甲陽史学会研究報告第2冊『播磨古法華山石仏と繁昌天神森石仏』で加西郡の古法華山三尊仏(奈良時代)を広く学界に紹介されたのを初め、先生が調査された結果、いま国指定史跡となっているのは、茨城県の新治郡衙跡、新治廃寺跡・上野原瓦窯跡、結城市結城廃寺跡・結城八幡瓦窯跡、兵庫県の伊丹廃寺跡、小野市広渡廃寺跡、丹波市三ツ塚廃寺跡などです。先生はいつも郷土の研究者との交わりを大切にされ、「文化財はその地域の人々によって守られるもので、私達はそのお手伝いをしているにすぎない。」と甲陽生に教えておられました。

(41回 橋本久 記)

訃報

(平成17年2月7日現在)

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

古塚	緩氏	(7回)	03年1月	逝去
椋尾	讓氏	(9回)	98年2月18日	逝去
松村大二郎氏		(9回)	04年2月23日	逝去
今井	芳文氏	(16回)	04年3月2日	逝去
林	達郎氏	(16回)	04年7月9日	逝去
田中賢太郎氏		(17回)	99年10月24日	逝去
中谷	修三氏	(17回)	03年12月8日	逝去
福沢	国紀氏	(17回)	04年3月9日	逝去
住谷	行平氏	(20回)	04年9月18日	逝去
佐野	幸政氏	(21回)	04年7月19日	逝去
中島	久氏	(22回)	04年9月15日	逝去
石津	拡氏	(23回)	04年5月	逝去
曾爾	信氏	(23回)	03年9月9日	逝去
榎本	時寛氏	(25回)	04年11月22日	逝去
庄司	昭氏	(28回)	05年1月5日	逝去
西垣	浩氏	(28回)	04年5月19日	逝去
高橋	武夫氏	(29回)	04年5月24日	逝去
麻田	裕暉氏	(35回)	04年11月18日	逝去
野原秀乃佑氏		(35回)	04年8月4日	逝去
吉田	昌弘氏	(38回)	04年6月10日	逝去
河本	祐一氏	(40回)	04年4月13日	逝去
川上万寿夫氏		(42回)	04年6月	逝去
大島	哲蔵氏	(47回)	02年5月	逝去
岸	正文氏	(51回)	04年8月12日	逝去
安井	利明氏	(62回)	04年2月9日	逝去
古宮善一郎氏	(高商1)		04年9月27日	逝去
蔵所 孝磨氏	(造船2)		04年12月3日	逝去

告 知 板

☆ 濱口博章先生に瑞宝中綬章 ☆

かつて母校にて教鞭をとられた濱口博章先生（甲南大学・姫路獨協大学名誉教授、21 回）が昨年秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました。ご報告いたします。

☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した 86 回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。詳細は、別途振込用紙同封の文書にてご案内しているとおりです。

また、これに伴い、卒業後 7 年以内の方（卒業時に 7 年分の年会費を前納）でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額は P.8 の表をご覧ください。

☆ 「ノボテル甲子園」の優待券 ☆

甲陽学院同窓会会員用に「宿泊 15% 割引」「レストラン & バー 10% 割引」の優待券を発行していただいています。2007 年 12 月 30 日までの優待券が事務局にございますので、ご希望の方は、お手数ですが、事務局までお電話・FAX・Eメールにてご請求ください。

☆ ーお願いー 住所変更の届け ☆

- * 会報の発行に際し、毎回・約 100 通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。
- * その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。
- * 各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。

☆ 理事・評議員の皆様へ ☆

- * 理事・評議員の皆様の中で、転勤などで関西から遠くに転居された方が目立ってきました。更に理事・評議員が選出されていない卒業回、また定員不足の卒業回も見られます。
- * 同窓会を運営し活動を行う上で、理事・評議員の方々は重要な役割を担われており、同期の方々の代表でもいられます。会則上、理事・評議員は同期の方々が適宜の方法で選出をされることになっています。よって理事・評議員が空白の卒業回、また定員不足の卒業回の方々は、同期の方々と話し合いをされて、その更新・補充を事務局までお届けをお願いします。
- * 選出の人数は、理事は、同期（卒業回）から 1 名。評議員は、各クラスから 1 名（5 名以内）です。

☆ 「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

- * 次号・第 72 号は、7 月下旬頃に発行を予定しています。
- * 「会員だより（同期会・クラス会）」・「運動部・文化部の O B 会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。
- * 原稿の締切日は、6 月 10 日です。

☆ 最近 5 年間に大学を卒業された方へ ☆

- * 最近 5 年の間に大学・大学院を卒業された方々の、現住所と就職先等の連絡漏れがあり、その確認作業に事務局として難渋しています。
- * この場合、高校卒業時の親元に連絡していますが、親元住所の移転も多く、これらの追跡調査に時間と費用と手間がかかります。必ずご連絡を下さい。
- * 同期の理事・評議員、又はクラスの幹事の方は、同期の仲間に移動があれば、事務局までご一報下さい。



甲陽学院同窓会会員のための

清 酒 白 鹿 酒 蔵 見 学 会

期 日：平成17年3月26日(土)

時 間：13：00～16：00

内 容：白鹿最新鋭の醸造蔵「六光蔵」見学、コモ巻き
実演見学後、座談会で、利き酒と白鹿自慢の銘
酒「山田錦」や灘酒本来の旨さの原点に戻った
「レ（れてん）」などを試飲しながら、お酒に関
する質疑応答。最後に「白鹿記念酒造博物館」
の見学を予定しております。

集 合：白鹿本社工場 西宮市建石町2-10
(右地図参照) 電話0798-32-2701

定 員：先着50名様

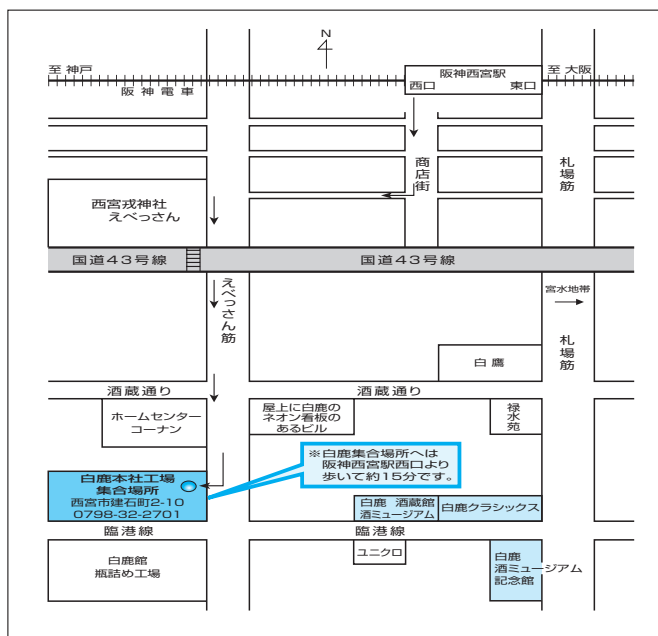
申込先：甲陽学院同窓会事務局

〒662-0096 西宮市角石町3-138

電話0798-71-4888

(月・水・木・金 10時～16時)

※ご家族・ご友人と同伴でご参加いただいても結構で
す。



■あて名ラベルの記号の見方

平成17年1月31日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会員H11年度

♪ 卒 1 1 1 1 1 0 0 終

② 下段には左から順に、平成元年度、2年度、…16年度の
年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院に在籍
0	〃 未納			卒	その年の3月に卒業

従いまして、下段に含まれる0の個数 × 1000円が、未納の年会費となります。
同封の振り込み用紙にてお支払いください。

★H元年以降に御卒業の方は、卒業時から7年分の年会費を予めお納め頂いております。
次の二つの例をご参照下さい。

♪ ♪ 卒 1 1 1 1 1 0 0 0 0 0 0

H10以降は未納です。
未納分をお納め下さい。

H15年分まで納付

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ 卒 1 1 1 1 1 1 1

H8年3月に御卒業、さらに1年分の年会費を頂いたので、
H15年度まで納付しておられます。

④尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、
そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。



ナイター会員募集中 (1年契約)

お仕事帰りにプレイテニス!! 快い汗を流しましょう。

登 録 料：20,000円
年 会 費：60,000円/年間
(半年ごと30,000円を2回)
ナイター料金：600円(当日)
●コート予約制
駐車場・シャワー完備



■お申し込みは

香 榎 園 テ ニ ス ク ラ ブ

http://www.koroen-tennis.jp/

西宮市大浜町2-48

TEL 0798-26-3389

阪神電鉄「香榎園」駅下車、南へ徒歩12分。

午後6時から午後9時まで
ご利用いただけます。